

自己評価報告書(最終報告)

報告者

言語系コース(英語)
／山森 直人

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ. 学長の定める重点目標

Ⅰ-1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

①学部および大学院の授業において、教育理論を具体的な教育実践事例や教育実習での学生の自己(像)と関連づけて指導するように努める。
②学部授業「初等中等教科教育実践Ⅲ」「教育実習事後指導」および大学院授業「教育実践フィールド研究」を柱に、学校現場と連携して授業を構成する。

2. 点検・評価

①前期「初等中等教科教育実践Ⅲ(英語)」において授業実践力評価スタンダードを用いて教育実習に必要な基礎的基本的な授業力を意識させるとともに、学内での模擬授業と附属小中での模擬実習を行うことで、教育内容と教育実践との関連づけを図った。
②前期「初等中等教科教育実践Ⅲ(英語)」では教科専門教員(英米文学)との協働し、模擬授業を通して附属小学校・中学校の教員と連携しながら授業を進めた。また、「教育実践フィールド研究」については附属中学校英語科教員と連携し、語順意識を高める教材・指導の開発を進めた。
③後期「英語オーラルコミュニケーションⅠ」において、次年度の教育実習に向け、外国語活動や英語科の授業において教室英語(クラスルームイングリッシュ)を使用する力を養うための演習を実施した。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

①英語科教育コースの学生の英語力向上に努める。学生に英語資格試験の受験を進めるとともに、そのための学習環境を整備し、試験対策に協力・支援していく。
②英語科教育コースの学生の教育実習に事前事後をふくめ積極的に関わる。
③日頃から英語科教育コースの学生に積極的に声をかけ、学生生活、勉学、進路などに関して相談しやすい雰囲気をつくる。
④英語科教育コースの学生の就職支援に積極的に取り組む。

2. 点検・評価

- ①英語科教育コース(学部)および言語系コース(英語)(大学院)の学生の英語力向上をねらい、コース掲示板等にて英語資格試験の情報を宣伝した。英語科教育コースおよび言語系コース(英語)の学生を対象としたTOEIC-IPテスト(6月11日)を実施した。また、同テストの事前対策英語勉強会(10日間)を開催し、テスト対策を協力・支援した。
- ②「初等中等教科教育実践Ⅲ」を通じて英語科教育コースの学生の教育実習事前指導をおこなった。特に、本学附属小学校・長野仁志教諭および附属中学校英語科・大牛英則教諭と連携し、同授業内で模擬実習(附属学校において授業を実施)をおこなった。
- ③日頃から英語科教育コースの学生に対し積極的に声をかけたり話す機会を設け、学生生活、勉学、進路などに関して相談しやすい雰囲気をつくってきた。
- ④英語科教育コースの就職支援を積極的に行ってきた。具体的には、進路に関する相談にのったり、教員採用試験に関する質問に答えたりした。また、就職支援チーム主催の教員採用試験前の模擬面接や模擬授業に面接官として参加した(6月18日、2月18日)。
- ⑤英語科教育コース3年生による教育実習(9月)の実習授業を積極的に観察し、指導方法等について助言した。

Ⅱ-2. 研究

1. 目標・計画

- ①科学研究費補助金による研究プロジェクト「英語科教師教育のための教室英語力育成プログラムの開発」を計画どおりに進める。
- ②授業内外での教育活動等と研究を連動させ、教員養成・現職教育に関する実践的な研究を推進する。また、学校教育現場に積極的に出向き、教育の現実を踏まえた教育研究を進める。
- ③研究成果を学会発表や論文投稿等の手段で積極的に公表する。

2. 点検・評価

- ①科学研究費補助金による研究プロジェクト「英語科教師教育のための教室英語力育成プログラムの開発」にもとづく、文献調査および研修プログラムの開発・実践を行った。
- ②上記科研プロジェクトを軸に小学校外国語活動現場に出向き、教師の教室英語使用の状況を調査し、その成果を校内研修に活かした。大学院授業「教育実践フィールド研究」において附属中学校教諭と連携し、中学生の英語語順意識を高めるトレーニングの開発に大学院生とともに取り組んだ。
- ③学術論文「小学校外国語活動のための現職教員研修に関する一提案」を四国英語教育学会『紀要』(第31号)に投稿し、掲載された。第23回四国英語教育学会松山研究大会において上島町立弓削中学校・前神るな教諭と「英語の語順意識を育てる試み—中学校における実践から」と題して共同発表した(6月26日)。第37回全国英語教育学会山形研究大会において「英語科教員養成課程における教室英語力育成のための実践的試み」と題して発表した(8月20日)。同発表の内容をまとめ、全国英語教育学会紀要(ARELE)23号に投稿し、掲載された。2011年度に実施した教師による教室英語の使用に関する実態調査の一部をまとめた「外国語活動における教師の英語使用に関する実態調査」と題する論文が『鳴門教育大学小学校英語教育センター紀要』(2号)に掲載された。2011年度の教育実践フィールド研究の実践報告「中学校英語科授業のプラス1時間—どのように対応するか—英語スキルアップトレーニング法の開発—(その2)」を『鳴門教育大学授業実践研究』(第11号)に投稿した。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

- ①平成23年度に担当することになる委員を通して、本学の運営に貢献する。

2. 点検・評価

- ①就職委員会の委員として本学の運営に携わった。
- ②第59回中国・四国地区大学教育研究会に伴うプロジェクト会議の委員として、同研究会の運営に携わった。
- ③教育実践フィールド研究検討専門部会の委員を担当した。
- ④工芸(陶芸)担当教員選考委員会および教員特別コース教員選考委員会の委員を担当した。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- ①教科教育実践や教育実習等を柱に附属学校教員と積極的に連携を図る。
- ②鳴門教育大学英語教育学会や四国英語教育学会など地域の英語教育研究活動に積極的に参画する。
- ③教育支援講師・アドバイザー派遣制度等を通して積極的に地域の学校に出向き教育支援を行う。
- ④公開講座や教員研修等を通して, 優れた教員の育成に積極的に関わる。

2. 点検・評価

- ①初等中等教科教育実践Ⅲにおいて本学附属小学校・長野仁志教諭, 附属中学校・大牛英則教諭と連携し, 教育実習の事前指導を行った。また, 教育実践フィールド研究を通して附属中学校・大牛英則教諭と連携した。
- ②四国英語教育学会の事務局長・徳島県支部理事および鳴門教育大学英語教育学会の副会長を担当した。
- ③教育支援講師・アドバイザー派遣制度で, 生比奈小学校の校内研修会(6月21日), 勝浦中学校の英語教育に関する支援(7月7日), 阿波市教育研究所主催の阿波市英語教育夏期研修会(8月23日), 香美市香長小学校の小学校「外国語活動」研究発表会の講演会(11月21日), 生比奈小学校の校内研修会(11月29日), 由岐小学校の校内研修会(12月1日), 加茂名小学校の校内研修会(1月26日), の講師を担当した。小学校英語教育センター出張型研修で横瀬小学校・生比奈小学校の合同校内研修会の講師を担当した(8月2日)。
- ④本学開催の免許更新講座(8月23日)と公開講座(8月24日)において「教室英語(Classroom English)の使用について」と題し, 講義・演習を担当した。
- ⑤徳島県立池田高等学校における「教育研究開発事業」の指定校運営指導委員を担当した。また, 徳島市・名東郡中学校英語弁論大会(9月22日)の審査員を担当した。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)